

家畜衛生だより 平成26年1月

紀北家畜保健衛生所

tel 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

tel 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

tel 0735-58-1481

【消毒薬を正しく使いましょう】

国外では口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの伝染病が発生しており、国内においても、豚流行性下痢の発生がありました。これらの伝染病から家畜を守るためにも、飼養衛生管理基準にも示されているように、日頃の消毒が必要不可欠です。しかし、消毒薬の特性を理解し正しく使用しないと、効果が低下してしまい、せっかくの消毒が無意味になってしまうこともあります。今回、主な消毒薬の特性や消毒方法などを紹介しますので、再度確認しましょう。

主な消毒薬の特性

消毒薬の種類	使用対象				
	畜舎	器具	踏込槽	動物体	手指
塩素系・さらし粉	○	○			
塩素系・次亜塩素酸ソーダ	○	◎		○	
ヨードホルム	○	○		◎	○
逆性石鹼	◎	○	○	◎	○
両性石鹼	◎	○		◎	○
クレゾール石鹼	○	◎	○		○
オルソ剤(オルソジクロロベンゼン)	○		◎		
消石灰	○		○		

◎は使用対象に最適、○は適。



1. 消毒の前に

消毒薬の種類により差はありますが、どのような消毒薬も糞や泥などの汚れがあると効果が低下してしまいます。消毒する前には水などで汚れをしっかりと落としてから消毒しましょう。

2. 消毒方法

①畜舎の消毒

汚れを落とした後、動力噴霧器などを用いて消毒薬を床面(1 m²に約 2ℓの割合)、排水溝、腰板、天井などに十分散布しましょう。また消毒の効果は温度上昇により高くなるものが多いので、消毒薬は 50～60℃の温水で溶解するようにしましょう。

②踏込み消毒槽

長靴に糞などの汚れがついていると消毒槽の中にその汚れが溶け出し、消毒効果が低下してしまいますので、消毒槽につける前には長靴の汚れをしっかりと落としましょう。また雨水や、直射日光による変質を避けるために覆いをするなどの工夫をしましょう。消毒薬の有効期間は使用頻度などにより差はありますが、定期的(少なくとも 1 週間に 1～2 回)に交換しましょう。

3. 消毒後

消毒が終わった後、畜舎や器具などしっかりと乾燥させるようにしましょう。消毒後濡れたまま放置しておくと、再び病原体である微生物が増える原因となってしまいます。

4. その他、注意点

用法・用量をしっかりと守りましょう。間違えた使い方をすると効果が低下してしまうだけでなく、人体や家畜に有害な場合もあります。消毒薬の中には刺激性の強いものもありますので、手袋やマスク、ゴーグルを装着するなどの対策をとりましょう。また、種類の違う消毒薬を混ぜると有毒ガスが発生する場合もあるので混合は避けるようにしましょう。



気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。